

## 69. <sup>ながさきかいどう</sup>長崎街道—<sup>ひみとうげごえ</sup>日見峠越・<sup>いびのおとうげごえ</sup>井樋尾峠越・<sup>たらしち</sup>多良通（<sup>たらかいどう</sup>多良海道）

選定箇所：日見峠（長崎県長崎市）、井樋尾峠（諫早市）、破籠井～鈴田（諫早市～大村市）、矢答峠～船倉（佐賀県太良町）～山茶花茶屋～長坂～七曲～大越、小川原浦（長崎県諫早市）

概要：江戸時代初頭に佐賀藩が整備した長崎街道の第一の幹線で、諫早永昌から多良岳東側を通る有明海周りで鹿島・塩田を通り佐賀に至る。他の藩の領地を経由せずに長崎警備や出島の情報を伝達することができ、また、諫早の光江津や多良の竹崎などで海路と接続し、有明海を渡って情報を伝えることもできた。

